道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード



三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～ http://www.fairytale.jp/ ～

すっかり琵琶湖ファンになってしまった一年前の「MATHER LAKE RALLY（以下：マザーレイクラリー）」。各所に置かれたポイントを巡る参加型イベントで、集うのは女性ライダーだけという稀有なバイクラリーですが、再びゲストとして参加させていただきました。四回目となる今年は、約150名が二日間に渡ってポイントを巡りました。このイベント運営をイチから支えてくれる彦根市のバイクショップ「オートショップハクイ」さんの仲間たち20人が、1年をかけて界隈を巡って選んでくれた37ヶ所のポイント（観光地・グルメ・撮影スポット・社寺仏閣　魚の種類や数はまだ戻っていないのかというと、まずは近隣1450万人の水瓶でもある琵琶湖。かつての石鹸運動で清い水が戻ってきましたが、滋賀県が2000年に策定した「マザーレイク21計画」のあと、2021年には2030年に向けて13もの「マザーレイクゴールズ（MLGs）」が掲げられました。

・絶景・道の駅・隣接県など）は、愛と冒険に包まれた愉快な場所ばかり。そして集まったのは、愛らしくて逞しく細やかで陽気な女性ライダーたちばかり。相乗作用で楽しすぎ、帰りたくなくて困ってしまうほどでした。

なんでこんなに気持ちいいのかというと、まずは全しつつ生活するという住民たちの想いが様々な形で発信され、観光客にも伝わってきます。ゴミ、少ないです。琵琶湖ブルーも星空も健在です。ベンチひとつ見ても、さりげなく歓迎してくれている気がして、なんだか癒されるのです。

今回は残念ながら台風がかすめていたので風雨もあったのですが、広大がゆえに走っているとどこかは晴れて、「やったーっ！」と笑顔にさせてくれました。パンクに立ちゴケに忘れ物と旅にはマイナートラブルがつきものですが、いろんなことがあってもみんなに会って大笑いしているだけで元気になる参加者たち。

そんな彼女たちを見てしきりに感心していたのは、主催者の風間深志さん（冒険家）。「トラブルがあっても愚痴ったり落ち込むのではなく、とにかく笑顔で前に進む女子はすごいね」と。そして、私とは55年以上の知り合いなのに、初めてこうも言われました。「昔から礼子はオーバーアクションで笑ってばかりで、コイツは何なのだろうと思っていたけれど…そうか、女性ってみんなそうなんだね。やっと理解したよ」。SSTRを始め、数日間で日本を縦断したり二日間で三霊山を巡ったり、16極を巡るような冒険系イベントをたくさん主催しているのに、意外とそういう事は知らなかったみたいです。「女性は集まるとすぐにハグして、きゃあきゃあ大騒ぎ。男子の再会とは全く違うよね」と。

女性だけの中にいると、私はごく普通のレベル。声が通って仕切ってくれる人、先導・率先してまとめてくれる人、困った人を助けてくれる人と、みんなちゃかちゃかと動いて初対面同士もすぐに仲良くなってしまいます。琵琶湖の対岸に届きそうにウルサイけれど、彼女たちのノリの良さと芸達者さと愛の深さにはいつもびっくりさせられます。今回もあっという間に手作りクッキーや名産品やカワイイ小物の頂き物で溢れました。「何かしてあげたい」はマザーの真骨頂。そしてそこでのアドレス交換。「何人友達できたかな？」というフレーズがありましたが、おそらく女子は桁が違います。ラリーポイントの出会いから始まって、イベント会場のワークショップ、宿、夕食会で盛り上がる女子たち。会話がメインディッシュなのは確か。

さて、今回私は、ハクイさんからハンターカブの新型をお借りして回ることにしました。が！　明け方に出発しようと思ったら、OA機器が壊れたり、緊急の用事が入ったり、工事渋滞だらけで、琵琶湖到着が夕方になってしまい、その日にバイクと会えませんでした（そんな時は「きっと天きなトラブルを回避できたのね」と思う私）。昨年は愛車ヤマハセロー250で赴いて1250キロも楽しい走りを堪能したのですが、今回はほぼ四輪になってしまいました。楽ちんすぎでご免なさい。2時間の仮眠後、朝の3時からイベント集合時間の14時まで、そしてみんなで交通安全パレードをした後に21時まで回って、32ポイントゲット。終わってから取り残しも巡って、なんとか36ヶ所回りました。約1600キロ。みんなで走ったバイクでのツーリングは70キロのみと少なかったのですが、十分に楽しめたのは、やっぱり女子パワーのお陰です。お喋りも堪能しましたが、どの人もバイクライフで輝いていたなあ。九州や東北など、遠くから一人でやってきた人も結構いたけれど、みんな無事に帰れたかな。来年もまた元気な笑顔で会いましょう♪













都市計画の中の街路56

ほこみちと地区の価値向上（その7）

東洋大学国際学部・准教授
志摩憲寿

前回は、市街地再開発事業とほこみちとの関係をみてきました。今回は、少し視点を変えて、ほこみちを使いこなす地域の力に目を向けてみたいと思います。

私たちが行った全国139路線の調査では、占用主体として商店街が40路線と最も多くなりました。また、路線価を比較できた77路線のうち、「ほこみち効果」がうかがえた24路線でも、13路線で商店街が占用主体となっていました。商店街が道路空間を使いこなす力は、どのように育まれるのでしょうか。今回は奈良市、呉市、沼津市の事例から考えてみたいと思います。

まず、奈良市の三条通（市道三条線）です。2022年4月にほこみちに指定され、分析では0・88ポイントの「ほこみち効果」が確認されました。この商店街「三条通ショッピングモール」では、2020年10月より市と連携しながら「春日表参道 SUNDAYS PARK」という取り組みを始めています。日曜日の歩行者天国を活用し、人工芝やテーブル、ハンモックなどを設置して、買物客や観光客が自由にくつろげる空間をつくるというもので、新型コロナ禍での実証実験には、複数の商店街も参加し、三条通では道路が「リビング」のような空間へと変わったとも報じられています。また、ほこみちの事例からは少し離れますが、奈良市内では、近鉄・大和西大寺駅北側の芝生空間（市道西大寺一条線）の「貸し出し」も行われています。2023年12月から2025年10月までの試行期間を経て、同年11月から通常の貸出制度へと移行しています。これもまた道路空間の使い方をめぐる新しい試みから継続的な利用の仕組みへと展開させた事例として注目されます。

呉市のれんがどおり商店街でもほこみちが活用されています。その一部である市道中通1丁目1号線は、2021年10月にほこみちに指定、その効果として1・10ポイントが確認されました。ここでは、ほこみち指定により、沿道店舗が食事や物販、休憩などのスペースとして道路を活用するとされていますが、実のところ、この指定に先立つ2020年7月にも「オープンスペース@れんがどおり」という道路空間活用の取り組みが行われていました。制度導入以前から道路を使いこなす経験が蓄積されていたことがわかります。

呉市では、指定ほこみち以外の道路空間活用も進められてきました。2021年には「オープンスペース@蔵本通り」として沿道店舗前の歩道空間の活用が計画され、2024年には「OH!! GOOD KURE OURS」として、蔵本通りと堺川沿いの中央公園一帯を対象に社会実験が行われました。さらに2026年9月には、こうした公共空間を舞台に活動する人と、その活動を支える企業等を結びつける「OURS倶楽部」の取り組みが始まりました。まずは公園での活動を対象に、さまざまな取り組みに挑戦する「倶楽部メンバー」と、それを支援する「倶楽部スポンサー」が募集されています。活動を継続するための担い手や支援者を育てる仕組みがつくられようとしています。

最後に沼津市です。2022年4月にほこみち指定を受けた県道沼津港線「あげつち商店街」では0・17ポイントの「ほこみち効果」が確認されました。占用主体の商店街振興組合が中心となって、ベンチなどを設置して道路を食事スペースなどとして活用するべく仕掛けています。この他にも沼津市では、新仲見世商店街では、商店街と市が検討を重ねる中で、「新仲見世商店街空間再編プロジェクト」として、2020年には商店街が老朽化したアーケードを撤去、翌2021年には市が道路改良を行うなど、道路空間の再編を進めてきました。また、沼津駅南口イーラde南側道路では、車道（駅前広場への左折車線）を1車線減少させ、その一部区間に常設のパークレットを整備する試みもみられます（2026年3月にほこみち指定）。沼津市においてもまた、複数の道路において、空間の使い方を試しながら日常的な利用へと展開させる取り組みが進んでいます。

これら3都市の事例を見ると、ほこみちを使いこなす力は、制度導入によって直ちに生まれるものではなく、まずは道路空間活用を試み、その経験を蓄積すること、そして商店街などの地元と行政が協力して活動を継続できる体制を整えることが確認されます。

参考文献　山元洸太（2025）「歩行者利便増進道路（ほこみち）制度の導入と路線価の関係性に関する研究」、2024年度東洋大学国際地域学科卒業論文、奈良市（https://www.city.nara.lg.jp/）、呉市（https://www.city.kure.lg.jp/）、沼津市（https://www.city.numazu.shizuoka.jp/）

道路ニュースの宛名変更・発送停止

○**宛名変更**：《「No.0000」または「U-00000」に記載されている番号》、《変更後の住所》、《「社名」または「氏名」》、《宛名変更》を記載し、FAXまたはE-mailでご連絡下さい。
○**発送停止**：《「No.0000」または「U-00000」に記載されている番号》、《「社名」または「氏名」》、《発送停止》を記載し、FAXまたはE-mailでご連絡下さい。

【宛名記載例】
〒100-0013
東京都千代田区霞が関3-3-1　尚友会館6F
全国道路利用者会議　様
No.0000　または　**U-00000**　1部

FAX　03-3501-5612
E-mail　the_road_news@road-jhuc.jp